

<空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！>

2021.10.19

JAL闘争を支える京都の会 News No.77

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

注目される 伏見大手筋 商店街宣伝行動

10月12日、JAL 165名を解雇したJAL稲盛和夫会長（当時：現在JAL名誉顧問）の地元の大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ「ユニオンネットワーク・京都」に結集する皆さんや、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」の皆さんなど14名に参加していただきました。JAL争議団からは神瀬麻里子さんに参加していただきました。

稲盛和夫氏の地元のせいか、通行人の関心は高く、「ビラの受け取りは日本一良いのでは。」という参加者の声もあります。ビラを受け取らなくても、横断幕をじっくり見て行かれる方も多いです。話し込んで行かれる方も多いです。「がんばってください。」と声をかけて行かれる方もあります。



宣伝行動ではまず最初に「京都の会」の駒井事務局長が「解雇されたベテラン乗務員は、先頭にたって空の安全と職場環境の改善を求めてきた。165名の整理解雇は、モノいう労働者の排除と労働組合の影響力を弱めることを狙ったもので、安全に逆行するものである。解雇強行後、稲盛会長（当時）は、記者会見や裁判の証言で『経営上解雇の必要はなかった。』と述べている。そうであるなら、一日も早く解雇した165名を職場に戻さなければならない。」と訴えました。



JAL争議団の神瀬さんは「JALがパイロット81名と客室乗務員84名、合計165名を解雇してから10年と9カ月が経った。この闘い、原職復帰と金銭解決を求めているが、この闘いも11年目になった。11年間、私たちは職場に戻ることがJALの安

（ウラ面に続く）

全をつくることだと思い、ここまで闘ってきた。今、全国に支援してくださる組織は 30 以上ある。皆さんこの問題は JAL だけの問題ではない、ましてや当事者だけの問題ではない、自分たちの問題だととらえて運動をしていただいている。

安倍・菅政権の 9 年間で働き方はムチャクチャになっている。働く人の 4 割は非正規労働者になった。その間、億万長者はますます富を増した。JAL が破綻したのは労働者の責任ではない。国から求められて必要でもないボーイング 747 ジャンボジェットを 113 機も買ったり、必要のない採算のとれないニューヨークのホテルを買ったり、放漫



経営が原因である。そして日米の貿易摩擦が原因である。その責任を当時の責任者はまったくとっていない。そして目標人数を超える希望退職者がいたにもかかわらず、年末大晦日に 165 名を解雇した。このようなことがまかり通っては日本中の労働者誰でも安心して働けなくなる。客室乗務員は 1995 年以降、入り口が契約制のみになった。「一年ごとの契約で 3 年経てば正社員になれる。」といわれて

いたが、全員が正社員になれたわけではない。そんな時代が続いていたが、5 年前、すべての客室乗務員が正社員になった。それはやはり労働組合で声を上げ続けたからだ。一人一人の力は弱い労働組合があれば団体交渉もできる。経営者にモノをいうこともできる。今回 JAL がおこなったのは、労働組合つぶしに他ならなかった。解雇になった 165 名の

ほぼ全員が労働組合に結集し、安全でないものには安全でない、おかしいことにはおかしいと経営者にものを言ってきた。そんな労働組合が JAL は邪魔になった。しかし労働組合は憲法で保障された活動である。経営者は労働者から団体交渉を求められたら開かねばならない。しかし、JAL は私たちが求める『解雇問題に特化した団体交渉』には答えずに解雇問題を解決するための特別協議という小規模な交渉を開いている。ILO の方から



もよく話し合うようにという勧告が 4 回も出ているが、ILO に対しても特別協議を 18 回もやっているということを言い訳にしていると言わざるをえない。JAL は団体交渉に応じるべきだ。そして私たち働くものは手をつないで日本全国で働きやすい日本にしていかなければならないと思う。命より儲けの企業と政治をぜひ皆の力で変えていこう。」と訴えました。参加者は大手筋商店街で「ひとりデモ」をおこない、お店の人や買い物に来た人たちに注目されました。

次回 宣伝行動 (呼びかけ JAL 闘争を支える京都の会)

11 月 16 日 (火) 午後 2 時～3 時 大手筋商店街